

ワークショップの結果 (Aグループ)

町民の方への見せ方

- ・健康
- ・暮らしの豊かさ
- ・節約

富士見町は「賃貸」が少ない
「賃貸」は断熱がしにくい！！

町営のエコハウスがあったらいい！！

(参考) 神山町大埜地住宅

1部 地球温暖化対策を考えることは
自分の生活に直結している。
両輪で検討していく興味を持った。

2部 現場ではインシヤルコストが問題。
ランニングで回収(20年)できる
とはいえネックになると思う。
お金の補助が必要。
ただし、早く始めることが重要
だと思う。

蓄電池

太陽光パネルを載せるのが高い

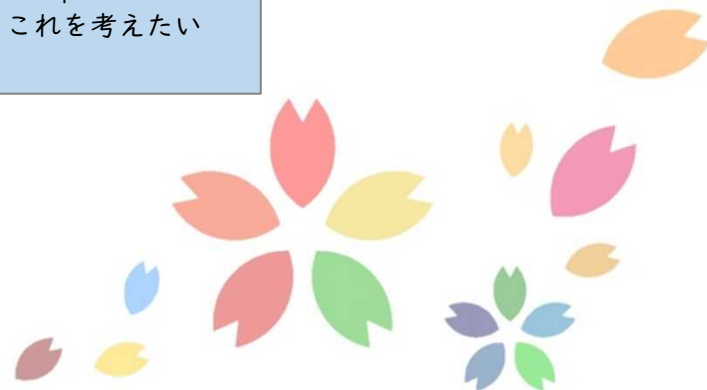
→上田市民エネルギー
のように
載せるハードルを下げる
サポート

補助金をもっと
多めにもらえれば
使いやすいのでは

脱炭素だけではない
× ○○ が効果的
↑
これを考えたい

公共施設の
断熱WS！！
(ワークショップ)

健康面でのアピール
とコラボ



ワークショップの結果 (Bグループ)

○リフォーム補助金

- ・限られている予算の中で単なる拡充は難しい。
- ・通常通りのリフォーム補助金は廃止し、省エネ補助金のみとして運用していくことは。

○アドバイザーの確立

- ・常駐は難しくとも、相談会の開催など、住民が相談できる体制の確立が必要。
- ・断熱による費用対効果の見える化などが必要。



ワークショップの結果 (C・Dグループ)

賃貸住宅もエコにできる制度設計

- ・ 家賃の光熱費の明示
- ・ 家賃の光熱費をトータルで支払う制度
- ・ 条例で義務化

太陽光パネルに対する補助

- ・ 省エネの計算の支援
何年で元が取れるか？

ローカルの地域で「回す」

たとえば富士見の林材を使うと補助するとか

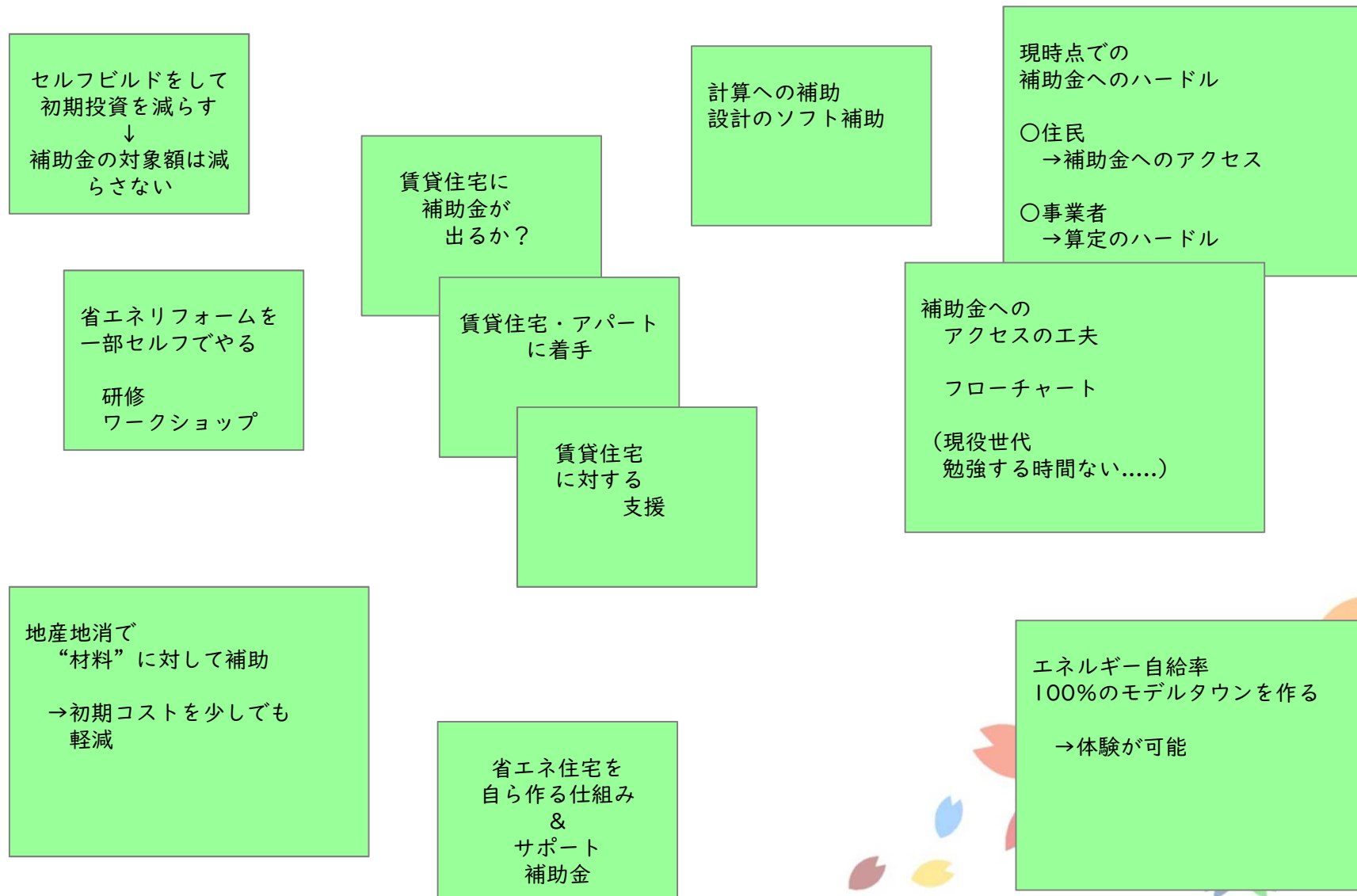
エコ・ビジネス (林業)

既存制度の周知

設備が高額
補助



ワークショップの結果 (Eグループ)



ワークショップの結果 (F・Gグループ)

省エネ性能が上がったことを
確認するツールの拡充

→対応資機材を増やしていく
必要

=ハードルを下げる

省エネ住宅のメリットを
周知する。

→家を建てる人の多くは省エネ
にメリットを感じていない？

→広がらない

省エネ住宅体験

補助金の
対象者を広げる

対象者の状況
(年齢・所得)
に応じた

補助率の設定

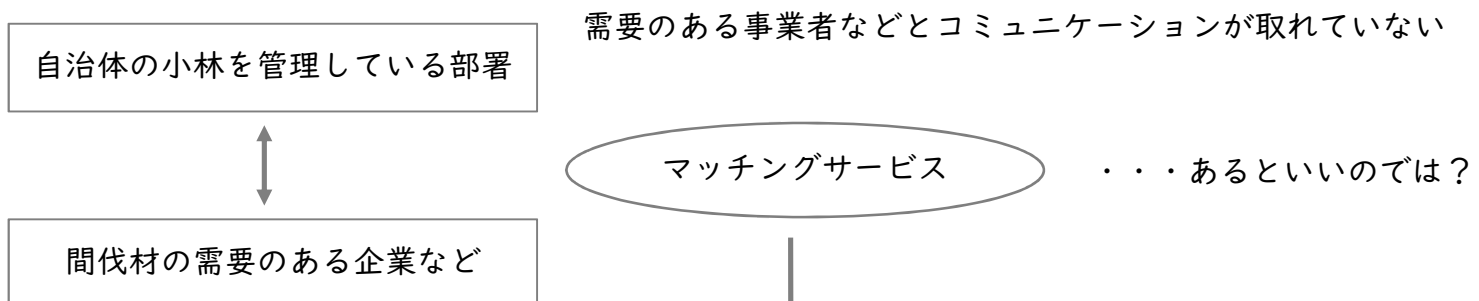


ワークショップの結果 (F・Hグループ)

今ある資源を活用できないか...

県・・・間伐材をどうするかという課題

富士見町・・・同様の潜在的な課題があるのではないかと？



実際に原村では...

新築の物件には、マキストーブ

太陽光をつける事例が多い

マキの価格が高く
活用できない家もある

マッチングサービスを活用し、いらぬ間伐材を安価にマキとして提供できるような仕組みがあれば、
エコハウスの推進/地域資源の活用につながるのでは？

